

# 辻 泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2012年11月20日 NO.115

## 衆議院が解散、総選挙へ!!

### 時計の針を元に戻してはならぬ!

11月16日、午後3時50分、衆議院本会議において、衆議院は解散され、12月4日公示、16日を投票日とする激しい闘いに突入。

今次総選挙は、3年前の政権交代以降の民主党・国民新党による政権運営に対する国民の審判を問い、これからの日本を前に進める

のか、再び後に戻すのか、国家と国民生活の行方を定める重要な意義を担った選挙です。

この3年強、外交・内政・党運営など至らぬことが多く、期待はずれと言われてきた民主党政権。しかし、それでも自民党ではできない政策を実現してきたことも事実です。

それらを具体的に例示するならば、

地域社会のきずなと国民生活の利便性を支えてきた郵便局のシステムを破壊した小泉構造改革の誤った郵政民営化の根本的見直しによる郵政事業の公共的位置づけの回復  
国民生活を苦しめた社会保障費の毎年度2200億円削減方針の撤回と義務的経費の確保  
診療報酬のプラス改定や5000億円強の地域医療再生基金による医療崩壊の改善

介護職員処遇改善交付金や介護報酬などの財政措置による介護体制の強化

児童(こども)手当の対象の中学生までの拡大と2兆円強への給付額の倍増による拡充

経済的事情による就学断念と格差拡大の防止をめざした高校授業料の無償化

日雇い派遣の禁止、失業保険の対象拡大など、人をモノと扱うような派遣労働の是正  
自民党時代に毎年度2~3円の引き上げしかなかった最低賃金の10円以上の引き上げ

年金の最低加入期間短縮、低所得者への福祉的給付による無年金・低年金の改善

自立・自助の理念の下に強行された障害者に対する応益負担の応能負担への改正

長らく放置され続けてきた難病対策の抜本的な解決に向けた法制化の推進

母子家庭の窮状に追い打ちをかけた生活保護の母子加算廃止の撤回・復活

父子家庭に対する児童扶養手当の支給、遺族基礎年金の父子家庭への支給

いじめ、学級崩壊などの改善をめざした少人数学級(当面35人以下)の着実な前進

など、国民生活の幸せの根幹にかかわる部分での大きな改善を成し遂げてきました。

民主党政権の誕生によって、自民党政権が続いていたならば光が届けられなかったところに光が届けられ、生活・暮らしの向上につながる事が実現したのです。政治の本質は幸せの追求に他なりません、基本的に強者の立場、競争・自己責任の論理に立つ自民党と新自由主義に立つ第3局政党が躍進すれば、国民生活は再び冷たい嵐に晒されます。

ようやく芽生えた庶民のための政治。やはり、自民党に対峙し庶民の立場に立つ民主党の存在・継続が絶対に必要です。必ず、ご期待に応え得る政党に脱皮します。どうか、深くご理解下さり、民主党の仲間に対する絶大なるご支援を、心からお願い申し上げます。

ご意見、ご要望はお気軽にご連絡を。なお、本号は下記のホームページに掲載済。

